『現代の奴隷
～身近にひそむ
人身取引ビジネスの真実と
私たちにできること

モニーク・ヴィラ著　山岡万里子訳　英治出版

訳者と読む『現代の奴隷』

『現代の奴隷～身近にひそむ人身取引ビジネスの真実と私たちにできること』
モニーク・ヴィラ著　山岡万里子訳　英治出版　の連続読書会

ノット・フォー・セール・ジャパン

2023年『人身取引反対世界デー』キャンペーン

読書会の流れ

＊ご挨拶・お願いなど／チェックイン
（お名前／どこから／前回から今日までの間に気づいたこと、考えたことなどあれば）

＊本書の概要紹介

＊その回でとりあげる章の概要紹介

＊ハイライト箇所の輪読
＊訳者・山岡万里子によるキーワード解説

＊ディスカッション（全体を４つのグループに分けてブレイクアウトROOM）

＊ディスカッションのシェアとQ&A

＊次回のご案内

◆目次：

序文――なぜ？ (ディーペンドラ) Preface: Why?
第1章　現代奴隷とは誰のことか Who are the Modern Slaves?
第2章　最も卑劣な犯罪――人身取引というビジネスモデル ジェニファー The Most Despicable Crime: Techniques of the Human-Trafficking Business Model
第3章　ネパールからカタールへ――債務奴隷 ディーペンドラ From Nepal to Qatar: Debt Bondage
第4章　心に刻まれたタトゥー――腐敗と免責 マルセーラ A Tattoo on Your Soul: Corruption and Impunity
第5章　奴隷化の心理的影響 ジェニファー The Psychological Impact of Enslavement
第6章　バル・アシュラムの子どもたち The Children of Bal Ashram
第7章　人身取引加害者の胸の内 (ジェニファー) In the Mind of a Trafficker
第8章　限られた選択肢 マルセーラ Limited Options
第9章　ビジネスが鍵（課題と解決法の両方で） ディーペンドラ Business Is Key—To the Problem and the Solution
第10章　解決法――個人から、分野を超えた世界的な関わりへ Solutions: From Individuals to Cross-Sector Engagement, Worldwide
第11章　私のヒーローたち My Heroes

第３回目　８月８日　19:30～

—

第５章　奴隷化の心理的影響

第６章　バル・アシュラムの子どもたち

第７章　人身取引被害者の胸の内

その後も待ち受ける困難～トラウマ、無理解、加害の悪循環～

第５章　奴隷化の心理的影響

―

再びサバイバー、ジェニファー・ケンプトンの物語

ジェニファーは恋人が人身取引の加害者であり彼に売られたのだが、何年もそのことに気づかず、さらには彼の手によりギャングに売られた。そして、麻薬密売所の地下室で自殺を試みたが、ロープが固定されず失敗に終わる……
（ここまでが前に紹介された話）

第５章　奴隷化の心理的影響

ジェニファーのその後の経験

自殺の試みは失敗に終わったとき、内なる声を聞く
⇒「稼いでくる」と奴隷保有者に伝えて、外へ
自分で歩いて自殺防止センター⇒病院へ入院⇒生活共同体で生活をスタート
就労不能：理由は窃盗の前科があったから（下着を2枚盗んだ）

タトゥーの話：セイレムの所有物、グレッグ、シドら加害者が名前を彫らせる
そのタトゥーをみるたび、過去に引き戻される
タトゥーを消す決心をしてその施術を受けているとき、天命を与えられる
サバイバーたちがタトゥーを除去、あるいは覆い隠す手助けをする
⇒支援団体『サバイバーズ・インク』の設立

人身取引の被害者として、政策提言や啓発、研修講師
国土安全保障省で警官たちに／学校で子どもたちに
グルーミングを受けていた少女、母親や近しい人が人身取引被害者の子どもたちの見方がかわる
警官にも売春婦の裏のシステムを伝える
心理学者やソーシャルワーカー、児童福祉関係者には、隠されている危機的状況について知らせる

第５章　奴隷化の心理的影響

ジェニファーの死

この生き生きとした告白の5週間後に
ジェニファーは亡くなる／薬物の過剰摂取が原因
活発で野心的、自信を取り戻していたジェニファーだが、トラウマから逃れることは困難だった
２日前までは前向きだった

トラウマ

人身取引被害者、現代の奴隷になった人のトラウマは知られていない
リハビリの期間はあまりにも短い
ケヴィン・ベイルズが呼びかけても、現代奴隷のPTSDを専門に研究したがる人はいなかった

大きなトラウマを持つと一生回復途上

現代奴隷の経験は大きなトラウマ
恥の感覚
「自分は奴隷にされてもしかたない人間」
人を信頼しない、できない
時系列にそって記憶を説明できない

精神的セラピーが効果的であるには、安心できる環境が必要

一般的な医療ニーズ、保護、住居、福祉、安定した在留資格等
専門的なセラピー　３～８ヶ月
その後、社会適応のための支援、１年～３年
セラピーが効果的であるためには文化の違いも視野に

声に出して、順番に読んでみましょう（輪読）

第５章：P117　１行目 「床に落ちてしまい」～P119　1行目「犯罪者として見られています。」

第５章：P136　１行目「当然ながら、」～P138　10行目「そっくりなぞっている」

第６章　バル・アシュラムの子どもたち

—

バルアシュラムの子どもたち～カイラシュ・サティヤルティの活動

これまで８万5,000人の子どもを奴隷労働、強制労働、債務労働から救出、回復センターで治療（2014年ノーベル平和賞受賞者）

カイラシュさんの活動について　映画に詳しい
The Price of Free

NFSJの紹介
https://notforsalejapan.org/books-films/202008/767

第６章　バル・アシュラムの子どもたち

心理的トラウマと身体的虐待に苦しむ子どもたち

救出された子どもたち、PTSD
加害者に恐怖を叩き込まれる
肉体的な虐待をうける
　暴力、同じ姿勢、罰としてずっと立たせる
　人を信用することができない

回復のためのセッション

子どもたちへのセッションは最初は個別に行う
最初はすべての大人を怖がる
アシュラムに来るすべての子どもが酷いストレス状態

多くの子どもたちや母親たちが自分の権利に自覚的になる

声に出して、順番に読んでみましょう（輪読）

第６章：P152　2行目 「子どもたちは最初」～P153　最後「信じることができるようになっているのだ。」

第７章　人身取引加害者の胸の内

著者はカイラシュさんに聞いた「人身取引加害者の動機は何か？」
「金銭欲と支配欲」

このことを聞くために、ジェシカ・グレアムに合う

ジェニファーを奴隷にした男（セイレム）の元妻
ジェニファーは後にジェシカと親しくなり慰めを得た
ジェシカは現在、ジェニファーが立ち上げたサバイバーズインクで働く

第７章は、ジェシカが語るセイレムの話

第７章　人身取引加害者の胸の内

ジェシカが語るセイレム（加害者）の人生①

6歳の頃から母親から性的虐待を受ける
13歳になるとセイレムの自称父親と暮らす。
帰還兵でPTSDを持つ男。暴力的な虐待をする。
セイレムはその男が自分で自分の顔を撃って自殺した第一発見者となる。
その後オハイオへ。ジェシカと出会う。
ホームセンターで働き給与をもらっていた。一方で薬の売人も。
ジェシカを監視するようになるが大事にされているとジェシカは思っていた
自動車事故の治療中に、鎮痛剤を与えられ、薬物乱用に。ヘロインも使用
泣き落とし「薬から足を洗うから帰ってきてほしい」

ヘロイン中毒、ジェシカは家を出るが、子どもたちとの面会は許可される
警察官を仲間にし、検査をすり抜ける方法を身につける

第７章　人身取引加害者の胸の内

ジェシカが語るセイレム（加害者）の人生②

ジェシカが去ったあと、セイレムはジェニファーに出会う
このときは、薬の世界をしっている。グルーミングの手段も
薬を使うにはお金がかかる⇒仲間たちから彼女を売ることを学ぶ

ジェシカはその後も何度もセイレムに会う（子どもたちとの面会）
セイレムの様子を知り、警察に通報することを試みる
（彼が女性たちを家に住まわせて売春させていることを録音）
警察は資金不足
自分たちが売春とみなしているものを人身取引だとして追求することに関心はない

セイレムは女性だけを売っている理由をジェシカは
「彼が母親に虐待された過去のコンプレックスから」という

セイレムは加害者であり被害者　虐待を受けた少年が大人になり……虐待の連鎖

声に出して、順番に読んでみましょう（輪読）

第７章：P180　後ろから１行目 「セイレムは加害者であると同時に」～P181　最後「できる人たちなのだ。」

山岡万里子によるテーマ解説

《解説》
その後も待ち受ける困難
～トラウマ、無理解、加害の悪循環～

①トラウマ ～その後も待ち受ける困難～

あるヨーロッパでの研究より

人身取引被害の経験直後、70%以上の女性が、
10以上の精神的症状（うつ、不安、敵意に関連）を経験。
28日以上経過しても52%が経験。90日以上経たないと軽減せず。
拷問被害者と同じか、それ以上に深刻である。

UNODC, *Anti-human trafficking manual for criminal justice practitioners Module 3* p.7

過去のトラウマ

「人身取引被害者のなかには、トラウマをもたらすような…経験を、人身取引の対象とされる前から持っていた者が多い。…これらの出来事は、人身取引…されている間に遭遇した…ストレス要因を悪化させ、…社会復帰段階でも重大な影響を及ぼす」

『人身取引被害者支援のためのIOMハンドブック』p.229

②無理解　～その後も待ち受ける困難～

よくある周囲の反応

(1)「なぜ逃げなかったのか」「なぜ助けを求めなかったのか」

(2)「自業自得だろう」「お金をもらってやっていたのだろう」

⇓

留意すべきこと

(1)「逃げたり助けを求めたら危害を加える」と脅されている場合が多い

(2)たとえ最初は同意していても、状況が変わる場合も多い

＊人身取引の定義：「人身取引の被害者が搾取について同意しているか否かを問わない。」

③加害の悪循環　~その後も待ち受ける困難~

人身取引の加害者

他の犯罪より、女性の割合が高い(30～40% UNODC)
＝元被害者だった女性が、
その後自ら人身取引加害者に転じることも多い
（上層部ではなく、リクルーターや管理側）

⇓

考えられる理由

＊そのままその組織にとどまり、階級が上がっていき加害者側になる
＊他の生活手段を知らない／教育を受けていない

（マルセーラのマネージャー女性など）

救出/解放後にも待ち受ける困難

最悪の場合、再び人身取引加害者の元へ（再被害）

【心理・精神上の問題】
- 精神的な傷・トラウマ（PTSD）
- 悪夢・抑鬱状態
- 報復や脅しへの不安・恐怖
- 人間不信・自信喪失・自己肯定感の低さ
- 記憶の混濁・混乱

【健康上の問題】
- 肉体的な傷(煙草火傷痕)
- 病気（AIDS・性感染症等）
- タトゥー強制被害
- 薬物や飲酒等への依存症
- 無保険
- 医療・福祉へのアクセスの無さ

【就労・住居の問題】
- 在留資格の喪失
- 就労支援の貧弱さ
- 職業訓練の無さ
- カウンセラー不足
- 住む場所が無い

【経済的な問題】
- 経済的困窮／貧困
- 収入・貯蓄が無い
- 借金返済の負担
- 未払い賃金賠償請求の困難さ

【社会的な問題】
- 世間のスティグマ（差別・偏見）
- 家族・共同体からの拒絶
- 捜査や裁判協力の負担
- 被害中の犯罪行為の前科

【教育的な問題】
- もともとの低学歴
- 勉強の遅れ
- 教師・生徒からの偏見

ディスカッション15分

次に示す問いについて
どのように捉えますか？

その他、気になったフレーズ、質問や疑問なども、自由に話してみてください

１）人身取引のトラウマとは

ここまで読んで、解説を聞き、どのように理解したか

２）加害者にならない、加害者を生み出さないためには何が必要か

ご参加、ありがとうございました

ノット・フォー・セール・ジャパン
Not For Sale Japan

次回は、
８月22日（火）19:30～
８章、９章を読みます